

表題 バーチャル家庭訪問を教材にヘルスアセスメント教育を実施

特色ある取組

医学部保健学科では、看護学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の3専攻合同で行うチーム医療実習を4年次に実施している。例年、へき地・離島を含めた地域医療機関で行っているが、今年度は、コロナ禍で通常の実習が困難となったことから、離島住民のバーチャル家庭訪問を教材としたヘルスアセスメント教育をオンラインで実施した。

大学の経営戦略経費の支援を受けて、3専攻の教員が三島村の黒島(人口191人)に赴き、学生に扮して一人暮らしの高齢者宅に家庭訪問を行い、その様子の動画を作成した(写真1)。また、教育効果を高めるために、実習の目的・目標、方法、評価、注意事項等を記載した要項を作成し、アセスメントの視点を明確にするためのアセスメントシートを開発した。

実習では、3専攻の学生116名を18のグループに分け、グループディスカッション、グループ発表、全体ディスカッションをオンライン形式で行った。発表と全体ディスカッションには、家庭訪問の対象者と三島村民生課職員2名が参加し、学生の質問対応と助言を教員とともに行った(写真2)。学生は、対象者と対象者が暮らす地域について自らの専門性を踏まえたアセスメントを行い、離島での高齢者支援のあり方についてチーム医療の視点で議論することができた。本取組は、コロナ禍での教育の取組として南日本新聞で紹介された(図1)。

期待できる成果・評価 など

IPE(専門職連携教育)の推進と、学生のチーム医療の理解とヘルスアセスメント能力の強化、および3専攻教員のIPEとアクティブ・ラーニングに対する教育力の向上を目指すことができた。また、三島村民生課職員との連携強化につながった。

コロナ禍におけるバーチャル教材を用いた教育のモデルにもなることから、今後、作成した動画を出版する予定である。また、来年度の世界展開力強化事業において、米国と韓国の学生との合同でのアクティブ・ラーニングに用いるために、作成した動画の多言語化に着手した。さらに、他学部と連携した「離島における保農獣工連携家庭訪問事業一人・牛・家の健康のための三島村プロジェクト」への発展を構想中である(図2)。

参考URL 鹿児島大学HP、鹿児島大学医学部保健学科HP
<http://www.kagoshima-u.ac.jp>



写真1 教材作成のための撮影の様子



写真2 オンラインでの学生発表の様子



図1 オンライン発表会記事(南日本新聞 2020年11月1日より転載)

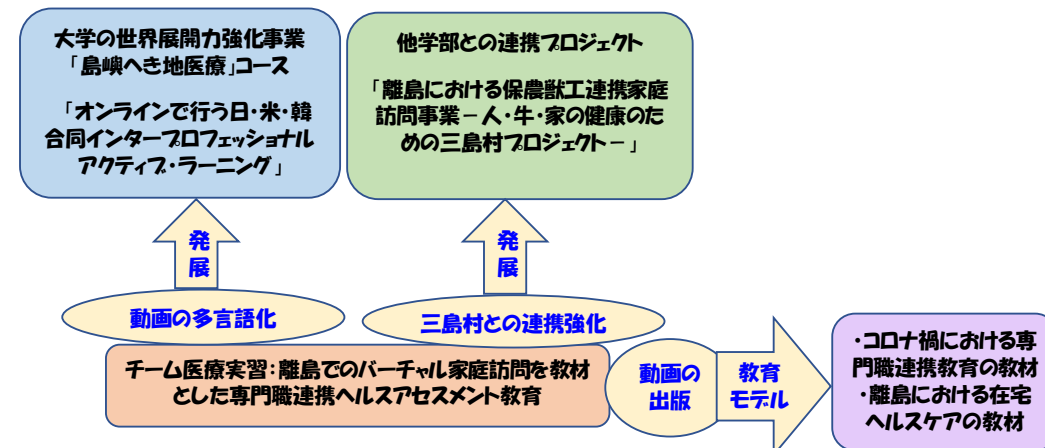


図2 取組の発展的構想